

沖縄県青年海外協力隊を支援する会会報

第8号

# はいむるぶし

(沖縄八重山地方の方言で南十字星の意 題字：故末次一郎氏)

〒901-2552 沖縄県浦添市前田1143-1  
国際協力機構沖縄国際センター内  
tel 098-876-6000 fax 098-876-6014  
沖縄県青年海外協力隊を支援する会  
発行責任者：事務局長 東江賢次

## 開発教育全国集会沖縄大会開催日決定 一月二十八日本集会 二九日フィールドワーク

六月三〇日の開発教育集会沖縄大会実行委員会設立総会では、大枠のみを決定したところだが、実行委員会を重ねて具体的な内容を築いてきている。

七月二十九日と八月三十一日に実行委員会を開催し、平成十八年一月二十八日

(土)に本集会、翌二十九日(日)にフィールドワークを行うことを決定した。

分科会は、①沖縄移民 ②青年海外協力隊 ③シニア国際協力 ④教育 ⑤フェアトレード で構成していくことを確認し、九月末を目処に各分科会の企画書をまとめていく。

実行委員会のメンバーは次表のように出揃った。



実行委員会 7/29

**開発教育とは**  
「地球市民」を育てることを、私たちは開発教育と呼んでいます。二十一世紀の社会は、人口、貧困、環境問題などグローバルな課題に取り組むことが強く求められています。そのために開発途上国など他の国の文化や人々の生活を理解することが必要です。  
開発教育全国集会は、(社)協力隊を育てる会と各県支援する会が開発途上国で活動している青年海外協力隊の体験を、市民の国際理解・協力を活かすために行っている集会で、この沖縄大会で十四回目を数えます。

役職・担当分科会	氏名	所属
1 大会実行委員長	津嘉山朝祥	沖縄県青年海外協力隊を支援する会
2 大会実行副委員長	上原盛毅	沖縄県青年海外協力隊を支援する会
3 事務局長	東江賢次	沖縄県青年海外協力隊を支援する会
4 事務局次長	玉城直美	沖縄NGO活動推進協議会
5 監査	米盛徳市	琉球大学
6 青年海外協力隊	仲間あずみ	沖縄県青年海外協力協会
7 青年海外協力隊	安里青子	沖縄県青年海外協力協会
8 青年海外協力隊	箱山幸治	沖縄県青年海外協力協会
9 沖縄移民	小菅爾郎	沖縄県立中部商業高校
10 シニア国際協力	親川政輝	沖縄県JICA帰国専門家連絡会
11 教育	廣嶋純哉	沖縄国際センター
12 フェアトレード	山崎 新	沖縄地域環境アセンブリー
13 フィールドワーク	那須 泉	琉球大学
14 フィールドワーク	古賀徳子	南風原町立南風原文化センター
15 事務局補佐	国吉宏昭	沖縄NGO活動推進協議会
16 事務局補佐	金城理恵子	沖縄NGO活動推進協議会
17 総合	中村可愛	沖縄国際センター
18 総合	高良英治	沖縄県青年海外協力協会
19 総合	小林けい子	沖縄県青年海外協力協会

# はいむるぶし

初めての団体旅行へ

## 東ヨーロッパ雑感

上原盛毅

沖縄県青年海外協力隊を支援する会副会長の上原盛毅夫妻が、東ヨーロッパを訪問した。協力隊を派遣している国もあるが、まだまだ私たちにとってなじみの薄い国々。その一端を紹介してもらった。

6月下旬に東欧4カ国(ハンガリー、スロバキア、チェコ、オーストリア)を駆け足で旅行してきた。いわゆる団体ツアーで全行程8日間の旅である。私にとって海外生活20年余、国外での旅行は何回もしている、日本人の団体さんを数多く見てきたが、私自身が参加する日本人(しかも県人だけ)の団体旅行は初めてである。若干、感想を述べてみたい。

団体ツアーの特徴を一言で言うると、安い、安全、効率的である。中華航空のウィーン就航記念セールであるにしても8日間、宿泊、3食付で20万円はいかにも安い。お土産類は買わないので、使った費用は夕食後ホテルで飲む酒代くらい(1万円以下)である。また、団体なので一番安全なところが選ばれているから、添乗員についていけばまったく心配ない。フリーの場合一人であれ、家族であれ、安全性には最大限気を使わなければならないから、その点気楽この上ない。効率についてもモーニングコールから食事時間、訪問先、そのガイドなどすべて設定されているので、大船になった気持ちで身を委せればよいのである。年配者にとってこれは有り難い。但し、若い人たちには勧められない。旅のロマンやハプニング、現地の生活や人との交流、発見や出会いとは無関係だからである。

私の海外経験はラテン・アメリカが中心で、スペイン、ポルトガル以外のヨーロッパは殆ど知らないが、ドイツ人、フランス人、イタリア人など多くの欧州人との付き合いがあった。しかし、上の東欧の出身者と付き合った記憶がなく、イメージが描けなかったのとか

つて愛読した宮本輝の「ドナウの旅人」の舞台背景が重なるので、興味がそそられたのである。

旅行中の移動はバスだけだった。そのおかげで東欧が一つの地域であることがよく分かった。たとえ言葉や文化は違うにしても、国境の差はないに等しい。米国とメキシコ、ブラジルとボリビア、アルゼンチンとパラグアイの国境は明確に格差があり、その違いは対照的である。さすがハプスブルグ家の帝国の残影である。また、この4カ国の史跡の銅像の大半はオスマン・トルコと戦った英雄たちであり、未だに感情的しこりが残っているように見受けた。スペイン、ポルトガルだって8世紀から800年近くもイスラムの支配下にあったのである。現在のトルコが当初からEUに加盟申請しているのに、後発組の中東欧が認められ、トルコが置き去りにされている意味が分かるよ



## はいむるぶし

うな気がした。キリスト教徒とイスラム教徒の目に見えない葛藤は未だに尾を引いているのである。

旅行会社の募集人員20人に対し35人が応募、その内、夫婦が16組、女性2人の組、男性1人で、殆どが50代以上の夫婦であった。東欧に関心を持つ人たちがこんなにいるとは頼もしい。また、参加者全員がすでに海外旅行を経験しており、お互いの経験談や情報交換をする情景に世の中の変わりようを改めて認識した。旅行中は男性が実にかいがいしく動いていた。これも予想とは逆であった。バスの窓側に誰が坐るかも夫婦関係の一つの目安であるが、こちらははやや男性が多かった。

旅行中に気がついたのは東欧の人たちが夏の太陽を出来るだけ全身で受けようとしていることである。女性、特に30代までの若い人たちはノースリーブのヘソ出しルック、半パンが多い。方やわが女性陣は長袖、長ズボン、つば広帽子、日傘までさせている。太陽の光を恐れるモグラの感じがしなくてもない。友人の医者によると、南極からオゾン層の破壊が進み、紫外線の悪影響が出てきているため沖縄女性が用心するのはやむを得ないし、緯度の高い東欧はまだそれほど



チェコ プラハのカレル橋に立つ上原夫妻

どではないからだという。ヘソ出しルックがオゾン層の破壊度と関係あるとは恐れ入った。

ヨーロッパで唯一アジア系民族の国ハンガリーには大いに興味があったが、人種的にも、社会的にも、モンゴリアン系の特徴は感じられず、西欧的であった。蒙古斑点も長い歴史の人種混合で消えかかっているらしい。地元の女性ガイドさんによると、ハンガリーの語源がゲルマン民族大移動を誘発した蒙古系のフン族(但し、まったく違う種族という)の侵入に由来するため、国内ではハンガリーとは絶対対言わず、マジヤール国やマジヤール人というそうだ。そんな使い分けせず、マジヤールで統一したらといったら、日本だって世界的には「Japan」となっているも訂正しないではないかと反論された。なるほどその通りで、一本取られた。こんな発見もあるから旅は楽しい。

また、チェコには観光地として有名な14世紀から数世紀にかけて建造されたカレル(Karlovy)橋があるが、これがドイツ語のカール、フランス語のシャルル、英語のチャールズ、スペイン語のカルロスと同一であり、当時ヨーロッパに君臨していたハプスブルグ家の名君の名前であることが分った。本だけでは得られない現場の知識の面白さである。

もう一つ印象に残っているのはハンガリーで宿泊したときである。ホテル名はThermal Margitsziget とあり、温泉宿を称している。添乗員も知らないというので、カウンターで聞いたら、自由に入れるという。早速、メンバーの夫婦と試すことにした。日本の普通の温泉と規模は変わらないが、温度(日本人にはぬるめ)と深さによって3箇所に分かれている。水着着用で、雰囲気は温泉プールの感じである。客はゆったりと自分のペースで時間を過ごし、中にはビーチチェアで読書に没頭しているものもある。私たちが入って出るまでの約40分間、出ていく客はいなかった。観光地はゆっくりと時間が流れていたのである。慌しい団体旅行でもこんな機会に出会うことがあるのは嬉しい。

はいむるぶし

お帰りのさい  
帰国ボランティア紹介

青年海外協力隊員4名、シニア海外ボランティア1名が、このほど任期を終えて帰国した。沖縄県支援する会は、8月26日に那覇市内で、歓迎昼食会を開いて労をねぎらった。

照喜名 渉子 ジンバブエ 音楽 2003.7～  
2005.7 金武町出身 JOCV



ジンバブエの子供たちから「学びたい」という気持ちが強く感じられた。人々はおしゃべり大好き。ゆったりとした時間が流れていた。目を外に向けることで価値観が変わった。

徳嶺 文人 ハンガリー 体育 2003.7～  
2005.7 那覇市出身 JOCV



日本は、電車が速いし時間どおり、トイレは無料、釣銭はきちんと返ってくる。でも表情が乏しい、愛想がない、なによりも挨拶しない。また、日本が意外に知られてないことに気付いた。

桑江 治美 コスタリカ 理学療法士 2003.7～  
2005.7 沖縄市出身 JOCV



文化の違う国で働くことの辛さ、おもしろさを体験した。どの国でもどんなに貧乏でも、親が我が子を愛する気持ちは一緒だと痛感した。

宮城 清宏 インドネシア 学術運営管理  
2003.4～2007 那覇市 シニア



大学の独立法人化に向けた支援が主業務。また、客員教授として講演や講義も担当。異文化の中で緊張と不安の日々もあったが、現地の皆さんの目線に合わせるよう努めることで、意思の疎通がうまくいき融和できた。

山本 留美子 パラオ 小学校教諭 2003.7～  
2005.7 宜野湾市出身 JOCV



パラオは私の母が生まれた国。60代以上の方はきれいな日本語を話す。演歌も流行していて、日本がすごく近いと感じる毎日だった。

JOCV:青年海外協力隊員 シニア:シニア海外ボランティア

編集室から 九月末になっても沖縄本島地方には、まだ台風が上陸してないめずらしい年。でも、近年では五月に上陸したことも、十二月に接近したことも。来ないことを祈りつつも、備えと覚悟は常に。当たり年の先島地方にはお見舞い申し上げます。(あがり)

イベント情報

国際協力・交流フェスティバル

県内国際交流団体が展示・ゲームで異文化紹介

日時: 11月5日(土)～6日(日)

場所: JICA沖縄国際センター

問合せ: JICA沖縄国際センター

098-876-6000

ふれあい講座

沖縄国際センター研修員が、自国の文化や自然を紹介

日時: 11月18日(金) 19:00～

場所: JICA沖縄国際センター

問合せ: JICA沖縄国際センター

098-876-6000

JICA海外ボランティア募集説明会

青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニアボランティアの募集説明

10月16日(日)14:00～16:00国際センター

10月25日(火)14:50～16:20 名桜大学

11月5日(土)14:30～16:30 国際センター

問合せ: JICA沖縄国際センター

098-876-6000

